

感想文

静岡理工科大学 芸術鑑賞講座 受講生（抜粋）

■ 1曲目から鳥肌が立ちました。私は音楽を聴くとき目を瞑って聴くのですが、伊津子さんの演奏に引き込まれるように体が前に傾いたり、指や体でリズムを取ったりしていたので、何度か椅子から落ちそうになりました。もっと伊津子さんの演奏を聴いていたかったです。

■ 私は普段クラシック音楽を聴く機会がなく、今回の音浴レクチャーコンサートをとっても楽しみにしていた。と同時に、こうした世界に疎い自分がその素晴らしさを理解できるのだろうか、という心配もあった。当日に会場で配られた演奏予定曲プログラムを見て、こんなにもたくさんの曲を演奏するのかと不安になったが、実際に伊津子さんの演奏が始まると私は聴き入ってしまって、あっという間にコンサートが終わってしまったように感じた。15人もの作曲家の曲を聴かせて頂いたのだが、終始、新鮮な気持ちで聴くことが出来た。こんなにもたくさんの曲があれば、どれかは似た曲になってしまってもおかしくはないと思うが、伊津子さんがそれぞれの作曲家の個性を活かした演奏をしてくれたおかげで、全ての曲に独特の雰囲気があり、変化を楽しむことができた。今回の素晴らしいコンサートでクラシックの魅力に触れることができたのを実感している。これを機に、これから様々なクラシック音楽を聴いてみたい。そして、それらの曲からたくさんの樹形を頭の中に描いてみたい。

■ 吉田伊津子さんのピアノの音色は、ただ弦を弾いて出たような音ではない、歌っているかのような、色々な感情のこもった音色であった。歌っているかのような音色というのは、音と次の音の間に、なめらかな、流れるようなつながりがあったということである。単発の音がただ連なっているのではなく、次の音、次の音へと、なめらかに流れていったのである。

伊津子さんのピアノの音を作る優しい音の流れは、水の上に浮いているかのような心地良い浮上感を感じさせた。また、伊津子さんのピアノには強弱の波があった。一音、一音に、はっきりとした強弱があり、強くなっては弱くなり、弱くなってはまた強くなり繰り返していた。寄せては返す波のようであった。そして驚くべきは、その強弱の繊細さである。単純にフレーズごとに強弱をつけていくのではなく、フレーズの中にまで強弱がついていた。この繊細な音の揺れは、浮上感にプラスして穏やかな波に揺られる感覚を感じさせた。

伊津子さんの奏でる音には深みがあり、優しく包んでくれるようであった。耳だけでなく全身で音を聞けるようだった。音を聞くというよりは、音を浴びているような感覚を覚えた。音が私に覆いかぶさったような感じ、音浴とはこういうことなのかと実感した。ピアノを弾く手の動きにもまた魅了された。伊津子さんの音に対する感情は、手の動きにも表れていた。特に「エリーゼの為に」の両手でピアノをなでるような動きで弾いていたところでは、衝撃を受け過ぎて、叫び出しそうになってしまった。どんなに手が踊っていようと、音がひとつも荒げることがなく、いつで落ち着いている音色には感銘を受けた。できることならもう一度、伊津子さんのピアノを聞きたい。

■ 私はピアノのコンサートが初めてだったので、どんな感じなのかと少し不安でしたが、思っていたよりも格式ばってはいなくて、とても聴きやすかったです。会場はとてもあたたかい雰囲気、伊津子さんとの距離も近いことに驚きました。難しい説明もなく、楽しそうに弾く伊津子さんを見ながら聴くピアノの音。力強く、ときに優しく、きれいな音色でした。あっという間の2時間でした。音楽全般に知識が全くない私でもとても楽しめました。とても良いコンサートでした。ありがとうございました。

■ 私は昔ピアノを弾いていましたが、その難しさと練習の辛さから小学校でやめてしまいました。しかし音楽を聞くことと歌うことは好きなままでした。吉田さんの演奏と、「簡単な曲でも奏でてみるといいですよ」という言葉で、また弾いてみたくなってしまいました。大したもの弾けません。でも、「聞く」側じゃなく、「弾く」側に久しぶりになりたいと思わせてくれたピアノと言葉に私はとても感謝しています。吉田さんの演奏をまた聴きに行きたいです。

■ 自分の知っている有名な曲もあり、とてもわくわくしました。演奏はとても美しく、時に力強く、時におだやかで、とても聞きごちがよく、その世界に引き込まれるような感じがして、時間がたつのを忘れてしまいました。あっという間に前半の1時間がたち、休憩に入った時は、次の演奏が待ち遠しかったです。

■ 普段、動画サイトかCDで聞いている音楽とは全く違った。耳から入ってくる音をはじめ、目や肌で感じるピアノの旋律は、まさに「音浴」というにふさわしかった。そして何より、吉田伊津子という人間に惹かれた。あんなに楽しそうに音楽のことを話す人を私は見たことがない。演奏の合間に語られる偉大な作曲家たちのことは、まるでついさっき会ってきたかのように話すし、とにかく楽しそうにピアノを弾く。最後に話して下さった、遠くの山並みや小鳥のさえずりや虫の声などから自分だけの旋律を見つけて楽しんでください、というのを帰り道に少し試してみた。なるほど、これは楽しいぞと思うと同時に、吉田伊津子の、見て、聞いている世界を少し感じることができた気がした。

■ 激しい曲や穏やかな曲、それぞれの曲に個性があった。色々な曲にふれ合うことで、すっかりとした感覚になることができた。このような感覚になった時に、私は、なるほど、これが音浴なのか、と思った。自分の中で何かが変わったように感じた。このようなコンサートを開いてもらい本当にありがとうございました。

■ 私が特に気に入った曲は、ドヴォルジャクのユモレスクです。この曲はCMの印象が強く、家の前で家族が遊んでいるようなイメージが頭の中に湧いてきました。しかし、途中で曲調ががらりと変わり、それにもなって私の中のイメージが、風の強い、夜の海の崖のようなイメージに変わっていったのがすごく面白くて興奮しました。今回の芸術鑑賞で音楽の素晴らしさを再確認することができました。これを機会に、色々な演奏会に行ってみよう。また、聴くだけでなく、最近ほとんど弾いていなかったピアノをすごく弾きたくなりました。